

2015年6月14日「行いと価値」

＜ 聖書箇所 ＞ 「ルカによる福音書 11章 37節～42節」

イエスが語っておられた時、あるパリサイ人が、自分の家で食事をしていただきたいと申し出たので、はいって食卓につかれた。ところが、食前にまず洗うことをなさらなかったのを見て、そのパリサイ人が不思議に思った。そこで主は彼に言われた、「いったい、あなたがたパリサイ人は、杯や盆の外側をきよめるが、あなたがたの内側は貪欲と邪悪とで満ちている。愚かな者たちよ、外側を造ったかたは、また内側も造られたではないか。ただ、内側にあるものをきよめなさい。そうすれば、いっさいがあなたがたにとって、清いものとなる。しかし、あなた方パリサイ人は、わざわいである。はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を宮に納めておりながら、義と神に対する愛とをなおざりにしている。それもなおざりにはできないが、これは行わねばならない。

＜ 説教抜粋 ＞ 「行いと価値」

今日の説教の題名は、「行いと価値」です。聖書の拝読箇所は、ルカによる福音書 11章 37節～42節です。イエス様はパリサイ人の食卓に招かれ、そこで食事をしていました。この直前、群衆の前でイエス様は一つのたとえ話をしています。旧約聖書には、ニネベという町に送られた預言者ヨナの話があります。

イエス様は、この時代に、そのニネベのような現象が起こると言いました。つまり、異邦人が悔い改め、むしろ祝福を受けるという話です。イエス様を食卓に招いたパリサイ人は、本来、祝福されなければならない立場でした。「イエスが語っておられた時、あるパリサイ人が、自分の家で食事をしていただきたいと申し出たので、はいって食卓につかれた。」。

このように、パリサイ人の食卓にイエス様が招かれます。「ところが、食前にまず洗うことをなさらなかったのを見て、そのパリサイ人が不思議に思った。そこで主は彼に言われた、」。食前に洗いの儀式をしなかったイエス様を、パリサイ人が不思議に思います。それを見たイエス様は、次のように言いました。

「いったい、あなたがたパリサイ人は、杯や盆の外側をきよめるが、あなたがたの内側は貪欲と邪悪とで満ちている。愚かな者たちよ、外側を造ったかたは、また内側も造られたではないか。ただ、内側にあるものをきよめなさい。そうすれば、いっさいがあなたがたにとって、清いものとなる。」。パリサイ人は、確かに、律法的には落ち度のない行いをしていました。

しかし、その内実においてはどうだったのでしょうか。素晴らしい外面に比べ、内面はむしろ、偽善に満ちていたのかもしれませんが。イエス様は、外面を整えることを、決して否定している訳ではありません。むしろ、素晴らしい行いを踏まえ、それにふさわしい内面を整えるべきだとの考えを述べられたのです。外面上の立派さが、その人の価値を決定するわけではありません。

「愚かな者たちよ、外側を造ったかたは、また内側も造られたではないか。ただ、内側にあるものをきよめなさい。そうすれば、いっさいがあなたがたにとって、清いものとなる。しかし、あなた方パリサイ人は、わざわいである。はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を宮に納めておりながら、義と神に対する愛とをなおざりにしている。それもなおざりにはできないが、これは行わねばならない。」。

十一條という信仰の実践は確かにすばらしいものです。しかし、「義と神に対する愛」をなおざりにしてはなりません。